

学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する 調査研究（1年次／3年）

大分県教育センター教科研修・ICT推進部
指導主事 岩矢 隆史

I 研究の背景

小・中・高等学校の学習指導要領総則（平成29年・30年告示）において、初めて全校種にわたって「キャリア教育の充実」が示された。大分県においては、子ども・若者の進路・職業意識の希薄さや社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題等への対応が求められており、大分県長期教育計画（「教育県大分」創造プラン2016）改訂版〈令和2年3月〉に「キャリア教育・職業教育の充実」を明記し、キャリア教育を推進している。

そこで本研究は、3年計画で、大分県のキャリア教育について、現状を把握するとともに実践事例を収集及び周知することで、キャリア教育に関する県教育センターにおける研修の充実を図り、大分県の更なるキャリア教育の推進に資することを目的とする。

II 現状と課題

全国学力・学習状況調査（質問紙調査）において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した大分県の小・中学校の児童生徒は、経年で見ると減少傾向となっている（H31：小83.7・中71.6、R3：小80.0・中68.3、R4：小78.7・中68.5）。キャリア教育の推進にあたり、発達段階を十分に考慮し、見通しを持った指導の一貫性や系統性を図るため、学年間・校種間の連携がますます重要となってくる。

そこで、大分県教育委員会は、令和2年に小・中学校の全児童生徒に「未来をえがくキャリア・ノート!」を、高等学校第1学年の生徒に「大分県版キャリアノート」を配布している。しかし、学校がこれらをどのように活用・保管・継承しているのかについては、十分に把握ができていない。

また、特別活動がキャリア教育の要としての役割を果たすことから、学習指導要領（平成29年・30年告示）特別活動編（以下、「特活編」という。）の学級活動・ホームルーム活動の内容に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が設定され、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりを明確化している。学級活動・ホームルーム活動(3)に関する実践事例が少ないことから、キャリア教育充実のために実践事例を収集していく必要がある。そこで、1年次はキャリアノート及び学級活動・ホームルーム活動についての実態を把握し、今後の課題を明確にするためにアンケート調査を行うこととした。

III 調査・研究の内容

令和4年度に県教育センターで実施する小・中・高等学校の初任者研修（在職1年目）、ステップアップ研修Ⅰ（在職2年目）、ステップアップ研修Ⅱ（在職3年目）、フォローアップ研修（在職4～7年目）、中堅教諭等資質向上研修（在職8～11年目）の5つの研修受講者を対象に調査した。（以下、初任者研修を「初任」、ステップアップ研修Ⅰを「SUⅠ」、ステップアップ研修Ⅱを「SUⅡ」、フォローアップ研修を「FU」、中堅教諭等資質向上研修を「中堅」という。）

調査は、校種別の Google Forms による回答で、令和4年10月～令和5年2月の期間に実施し、

対象者の人数は[表 1]の通りである。

アンケートは主に「キャリア教育に関すること」、「キャリアノートに関すること」、「学級活動・ホームルーム活動（3）に関すること」、「学校組織としてのキャリア教育の取組に関すること」、「キャリア教育の研修意欲に関すること」の5領域 20 の質問項目で構成し、校種と各質問項目でクロス集計を行った（【別添資料】参照）。

[表 1] 調査対象（人）

研修	校種	小	中	高	計
初任		106	73	38	217
SU I		106	57	53	216
SU II		106	64	46	216
FU		39	35	28	102
中堅		51	24	36	111
計		408	253	201	862

IV 調査・研究の結果

1 キャリア教育に関する結果

1-1 キャリア教育の理解度

[表 2]は、キャリア教育の目的・意義の理解度について、校種別にまとめたものである。各校種とも「よく理解している」の割合は 10%未満と低く、肯定的回答（ア＋イを表す、以下同じ。）は 75%程度である。校種別にみると、高等学校が一番高い。

[表 3]は、キャリア教育で育成する「基礎的・汎用的能力」の理解度について、校種別にまとめたものである。各校種とも「内容を人に説明することができる」の割合は 10%未満と低く、肯定的回答は 50%程度である。校種別にみると、高等学校が一番高い。

[表 2] 【質問 5】あなたは、「キャリア教育」の目的・意義をどの程度理解していますか。

校種	選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)		4%	63%	32%	1%
中 (n=253)		5%	69%	25%	1%
高 (n=201)		9%	73%	18%	0%
計 (n=862)		6%	67%	27%	1%

ア：よく理解している イ：やや理解している
ウ：あまり理解していない エ：まったく理解していない

[表 3] 【質問 6】あなたは、「キャリア教育」で育成する「基礎的・汎用的能力」をどの程度理解していますか。

校種	選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)		2%	48%	45%	4%
中 (n=253)		2%	47%	45%	6%
高 (n=201)		6%	56%	33%	4%
計 (n=862)		3%	50%	43%	5%

ア：「基礎的・汎用的能力」について詳しく知っており、その内容を人に説明することができる。
イ：「基礎的・汎用的能力」について、その内容を人に説明はできないがある程度知っている
ウ：内容はよく知らないが、「基礎的・汎用的能力」という言葉は聞いたことがある
エ：「基礎的・汎用的能力」という言葉を聞いたことがない

1-2 キャリア教育の理解度と指導との関係

[表 4]は、キャリア教育の目的・意義の理解（【質問 5】）についての肯定的回答群と否定的回答（ウ＋エを表す、以下同じ。）群で、キャリア教育の視点を意識した指導（【質問 8-1】）の状況を調べた結果である。

校種が上がるにつれて意識が高くなっており、各校種とも肯定的回答群が否定的回答群に比べキャリア教育の視

[表 4] 【質問 5】肯定的回答と否定的回答別【質問 8-1】の結果

校種	【質問 5】	【質問 8-1】	
		① (意識あり)	② (意識なし)
小	肯定的回答 (n=273)	64%	36%
	否定的回答 (n=135)	16%	84%
中	肯定的回答 (n=187)	75%	25%
	否定的回答 (n= 66)	18%	82%
高	肯定的回答 (n=165)	86%	14%
	否定的回答 (n= 36)	19%	81%
計	肯定的回答 (n=625)	73%	27%
	否定的回答 (n=237)	17%	83%

①：意識して指導している ②：意識して指導していない

学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

点を意識した指導を行い、60%を超えている。一方で、小・中学校においては、肯定的回答群の中にも30%前後は意識した指導ができていない状況がある。

【表5】 【質問6】 肯定的回答と否定的回答別【質問8-1】の結果

【表5】は、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」の理解（【質問6】）についての肯定的回答群と否定的回答群で、キャリア教育の視点を意識した指導（【質問8-1】）の状況を調べた結果である。

校種が上がるにつれて意識が高くなっており、各校種とも肯定的回答群が否定的回答群に比べキャリア教育の視点を意識した指導を行い、65%を超えている。

校種	【質問8-1】	① (意識あり)	② (意識なし)
	【質問6】		
小	肯定的回答 (n=206)	68%	32%
	否定的回答 (n=202)	29%	71%
中	肯定的回答 (n=124)	77%	23%
	否定的回答 (n=129)	44%	56%
高	肯定的回答 (n=125)	89%	11%
	否定的回答 (n=76)	50%	50%
計	肯定的回答 (n=455)	76%	24%
	否定的回答 (n=407)	38%	62%

①：意識して指導している ②：意識して指導していない

一方で、小・中学校においては、肯定的回答群の中にも30%前後は意識した指導ができていない状況がある。

2 キャリアノートに関する結果

2-1 キャリアノートの理解度

【表6】は、キャリアノートの目的・意義の理解度について、校種別にまとめたものである。各校種とも「よく理解している」の割合は10%前後であり、肯定的回答は、およそ40~80%と、校種によってばらつきが見られる。特に高等学校は、小・中学校に比べ25~35ポイント程度低くなっている。

【表6】 【質問9】 あなたは、県版「キャリアノート」の目的・意義を理解していますか。

校種	選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)		12%	68%	20%	1%
中 (n=253)		8%	60%	30%	2%
高 (n=201)		5%	38%	49%	7%
計 (n=862)		9%	58%	30%	3%

ア：よく理解している イ：やや理解している
ウ：あまり理解していない エ：まったく理解していない

2-2 キャリアノートの活用・教材・保管

キャリアノートの活用方法で最も多かった回答は、小・中学校が「学期末、学年末などに記録を振り返るための時間を設けている」（小：92%、中：71%）であり、高等学校では「一切活用していない」（高：40%）であった。キャリアノートの活用方法について、校種間で差が見られた（【別添資料】質問10参照）。

ポートフォリオ的な教材の活用で最も多かった回答は、小・中学校が「『未来をえがくキャリア・ノート!』のみ活用」（小：88%、中：66%）であり、高等学校では「『大分県版キャリアノート』は活用せず、学校独自のフォーマットを活用」（37%）であった。ポートフォリオ的な教材について、校種間で差が見られた（【別添資料】質問16参照）。

キャリアノートの保管については、各校種とも学校内で保管している割合が高かった（小：99%、中：96%、高：70%）が、高等学校では各自保管の割合が小・中学校に比べ高くなっている（【別添資料】質問17参照）。

2-3 キャリアノートの引継ぎ

キャリアノートの学年間の引継ぎについて、「行っている」と回答した割合は、小学校79%、中学

校 75%、高等学校は 27%であった。また、高等学校で「わからない」の回答が 46%と最も多かった（【別添資料】質問 18 参照）。

キャリアノートの校種間の引継ぎについて、「行っている」と回答した割合は、小学校 63%、中学校 68%、高等学校 3%であった（【別添資料】質問 19 参照）。

3 学級活動・ホームルーム活動に関する結果

特活編の学級活動・ホームルーム活動（3）に示された内容項目ア～ウ（高等学校はア～エ）の実施状況について、「すでに行っている」と「まだ行っていないが、今後行う予定である」を合わせた数値をみると、小学校は 80%程度、中学校は 75%程度、高等学校は 70%程度となっている。内容項目別にみると、社会参画意識の醸成等に関する内容（小・中学校はイ、高等学校はウ）は各校種とも高い傾向にあるが、主体的な学習態度の形成等に関する内容（小学校はウ、中学校はア、高等学校はイ）は各校種とも低い傾向にある。（【別添資料】質問 11 参照。）

4 学校組織としてのキャリア教育の取組に関する結果

キャリア教育の「全体計画」及び「年間指導計画」があるかどうかについて、「ある」と回答した割合は、小・中学校 70%程度、高等学校 55%程度であった（【別添資料】質問 12 参照）。

キャリア教育に関する担当者を中心とする校務分掌組織が機能しているかどうかについて、肯定的回答は、小・中学校 65%程度、高等学校 75%程度であった（【別添資料】質問 13 参照）。

キャリア教育に関する校内研修を実施しているかどうかについて、「実施している（今後実施する予定）」と回答した割合は、小・中学校 35%程度、高等学校 40%程度であった（【別添資料】質問 15 参照）。

5 キャリア教育の研修意欲に関する結果

今後、キャリア教育に関する研修をどの程度受けたいと思うか質問したところ、肯定的回答が各校種とも 90%を超える結果となった（【別添資料】質問 7 参照）。

V 考察

1 成果と課題

1-1 キャリア教育について

目的・意義、「基礎的・汎用的能力」の肯定的な理解度は半数を超えているが、「よく理解している」の割合が各校種とも 10%未満であり、十分に理解が及んでいないと言え難い状況である。

また、目的・意義、「基礎的・汎用的能力」の理解度が高くなるにつれて、指導に対する意識も高くなる傾向がうかがえる。小・中学校は高等学校に比べ理解度と指導に対する意識がともに低く、今後高めていく必要がある。

このことから、理解度を高めていくことでキャリア教育の視点を意識した指導が充実していくことが考えられる。理解度を高め指導の充実を図るため、目的・意義、「基礎的・汎用的能力」について、県教育センターのキャリア教育に関する研修で、明確な理解を促していく必要がある。

1-2 キャリアノートについて

目的・意義の理解について、小・中学校では 70～80%程度の肯定的回答に対し、高等学校では 50%

学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

に達していないことが分かった。また、各校種とも「よく理解している」と回答した割合は10%程度であり、十分に理解が及んでいるとは言い難い状況である。

小・中学校は90%程度の学校が「未来をえがくキャリア・ノート!」を、高等学校は50%程度の学校が「大分県版キャリアノート」を活用している。高等学校は、独自のフォーマットを活用している割合が小・中学校に比べ高い特徴がある。

活用方法について、各校種とも学期末、学年末などに活用することが多いものの、小・中学校と高等学校で大きく差が見られた。高等学校では「一切活用していない」が40%と高い。

アンケートの記述から、キャリアノートの困りや疑問の意見が多数あった。活用はしていても、必要性や有効な活用方法を見出せておらず、業務負担感を抱えている教員も少なからず存在していることが分かった。

引継ぎについて、「行っている」と回答した割合は、学年間・校種間ともに高等学校が著しく低い結果となった。中学校まで活用していたキャリアノートの継承が実現できておらず今後の課題と言える。

また、高等学校では、学年間で引き継いでいるか「わからない」の回答が46%あることから、キャリアノートそのものが何か理解できていない可能性も示唆される。

以上のことから、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育の推進を図るキャリアノートの効果的な活用のため、県教育センターのキャリア教育及び特別活動に関する研修において、キャリアノートの目的・意義の理解を促すとともに、実践事例を提供していくことが必要だと考えられる。また、ホームページ掲載や関係各課と連携した情報発信に努める必要がある。

1-3 学級活動・ホームルーム活動について

特活編に示されている学級活動・ホームルーム活動(3)に関する授業を行っている教員の割合は、各校種とも70~80%程度と高いことが分かった。しかし、内容項目間でばらつきがあることや「わからない」の回答が20%程度存在することから、学級活動・ホームルーム活動(3)の授業がどのような授業なのか、具体的なイメージを持つことができていない状況も考えられる。

このことから、さらに授業実践の充実を図るため、実際にどのような授業を行っているのか、県内の実践的な好事例を収集し研修に反映させるとともに、具体的な実践事例を共有していく必要がある。

1-4 学校組織としてのキャリア教育の取組について

全体計画と年間指導計画が学校にある割合は55~75%程度、校務分掌組織が機能している肯定的割合は65~75%程度であるものの、計画と実践が十分に結びついておらず、組織的にキャリア教育の推進が図れていない状況もうかがえる。また、キャリア教育に関する研修に対して、校内で実施しているという認識は35~40%程度に留まっている。

このことから、県教育センターの研修の充実に加え、県教育庁関係各課と連携し、各学校における組織的なキャリア教育を推進していく必要がある。

1-5 キャリア教育の研修意欲について

キャリア教育に関する研修への受講意欲が各校種とも90%を超えるほど高いニーズがあることが分かった。アンケート調査の結果から、キャリア教育に関する具体を明確にしたいといった意欲を持つ教員が多いことが考えられる。さらに、アンケートに記述された困りや悩みを踏まえると、キャリア教育の大切さは分かっているが、どう実践していけばよいか困りを抱えている教員が多いことが推

測される。

このことから、教員個々人のキャリア教育の実践を促進するため、県教育センターにおけるキャリア教育に関する研修の構築と充実を図る必要がある。

2 次年度に向けて

これまでの考察から、改めて次の2点が今後の課題として挙げられる。

①キャリア教育について十分な理解を図ること

②学級活動・ホームルーム活動（3）等のキャリア教育に関する具体的な実践事例の収集及び周知

学ぶことと将来をつなぎながら「轍」をつくっていくキャリア教育を推進していくことは極めて重要なことである。日常で行っている学校の教育活動全体をキャリア教育の視点で捉え直し、実践へとつないでいくことが求められる。理解と実践を往還することでキャリア教育の充実を図ることが大切である。現在、県教育センターにおけるキャリア教育に関する研修は、初任者研修の1セッションのみである。今後、各教科研修においてキャリア教育の視点を踏まえた内容を構築する等、実践につながるための理解を深める研修の構築をしていく必要がある。

そこで、令和5年度のテーマ別研修に「キャリア教育研修—学年間・校種間の連携—」を新設することとした。これにより、各学校のキャリア教育の充実にも少しでもつながることを期待している。

次年度は、キャリア教育の実践について学校を調査し、実践事例として周知していくことで、キャリア教育の推進に寄与したい。

VI 参考文献等

- ・中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア・職業在り方について（答申）」平成23年1月
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書」令和2年3月
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」令和3年10月

【別添資料】

キャリア教育の実践に関するアンケート

- ・各質問と校種別の回答状況は以下の通りである。
- ・表において、小学校は「小」、中学校は「中」、高等学校は「高」と表記している。
- ・質問の選択肢は、ア～クで示している。
- ・回答の割合は、小数第1位を四捨五入した値で示しているため、100%にならない場合がある。
- ・【質問1】【質問2】【質問3】については、フェイスシートのため、省略している。
- ・【質問5】【質問6】【質問9】については、報告書に記載しているため、省略している。

【質問4】あなたは、キャリア教育に関する分掌を担当していますか。

- ア：はい
イ：いいえ

校種 \ 選択肢	ア	イ
小 (n=408)	11%	89%
中 (n=253)	10%	90%
高 (n=201)	23%	77%
計 (n=862)	14%	86%

【質問7】あなたは、今後キャリア教育に関する研修（校内外を問わない）をどの程度受けたいと思いますか。

- ア：とても受けたいと思う
イ：やや受けたいと思う
ウ：あまり受けたいとは思わない
エ：まったく受けたいとは思わない

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	22%	69%	9%	0%
中 (n=253)	30%	65%	4%	0%
高 (n=201)	29%	61%	8%	1%
計 (n=862)	26%	66%	7%	0%

【質問8-1】あなたは、教育活動の中でキャリア教育の視点を意識して指導していますか。
(※①と回答した人は質問8-2へ、②と回答した人は質問9へ進んでください。)

- ア：①意識して指導している
イ：②意識して指導していない

校種 \ 選択肢	ア	イ
小 (n=408)	49%	51%
中 (n=253)	60%	40%
高 (n=201)	74%	26%
計 (n=862)	58%	42%

【質問8-2】質問8-1で①と答えた人にお聞きします。
あなたは、どの教育活動にキャリア教育の視点を意識して指導していますか。
(複数回答可)

- ア：各教科の授業
イ：道徳科の授業
ウ：総合的な学習（探究）の時間の授業
エ：特別活動
オ：その他

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ	オ
小 (n=198)	55%	49%	58%	45%	4%
中 (n=153)	63%	47%	83%	52%	3%
高 (n=149)	76%	64%	64%	24%	7%
計 (n=500)	64%	48%	68%	41%	4%

【質問 10】 あなたは、「キャリアノート」（県版及び学校独自のものを含む）をどのように活用していますか。（複数回答可）

- ア：学期末、学年末などに記録を振り返るための時間を設けている
- イ：児童生徒同士による共有・フィードバックを行っている
- ウ：記録に対する教員からのフィードバックを行っている
- エ：記録に対する保護者からのフィードバックを行っている
- オ：通知表や指導要録の評価の材料として活用している
- カ：児童生徒を理解するための資料として活用している
- キ：一切活用していない
- ク：その他

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
小 (n=408)	92%	9%	37%	34%	12%	40%	2%	1%
中 (n=253)	71%	6%	25%	13%	17%	47%	12%	1%
高 (n=201)	35%	5%	12%	1%	13%	32%	40%	3%
計 (n=862)	73%	7%	28%	20%	14%	40%	14%	2%

【質問 11】（小学校）

あなたの所属学年では、学習指導要領（平成 29 年・30 年告示）特別活動編に示されている「学級活動（3）」の内容ア～ウに関する授業を行っていますか。

（学級活動：ア）

「学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標を持ち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとすること」

（学級活動：イ）

「清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること」

（学級活動：ウ）

「学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら学習の見通しを立て、振り返ること」

- ア：すでに行っている
- イ：まだ行っていないが、今後行う予定である
- ウ：まだ行っておらず、今後もしない予定がない
- エ：わからない

小学校 (n=408) \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
学級活動（3）ア	60%	23%	3%	14%
学級活動（3）イ	76%	13%	3%	7%
学級活動（3）ウ	45%	30%	9%	16%

【質問 11】（中学校）

あなたの所属学年では、学習指導要領解説特別活動編に示されている「学級活動（3）の内容ア～ウに関する授業を行っていますか。

（学級活動：ア）

「現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること」

（学級活動：イ）

「社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること」

（学級活動：ウ）

「目標をもって、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心として考えること」

ア：すでに行っている

イ：まだ行っていないが、
今後行う予定である

ウ：まだ行っておらず、
今後も行わない予定がない

エ：わからない

中学校 (n=253)	選択肢			
	ア	イ	ウ	エ
学級活動（3）ア	40%	29%	13%	19%
学級活動（3）イ	60%	20%	7%	13%
学級活動（3）ウ	51%	30%	5%	14%

【質問 11】（高等学校）

あなたの所属学年では、学習指導要領解説特別活動編に示されている「学級活動（3）の内容ア～エに関する授業を行っていますか。

（高：ア）

「現在及び将来の生活や学習と自己実現とのつながりを考えたり、社会的・職業的自立の意義を意識したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること」

（高：イ）

「自主的に学習する場としての学校図書館等を活用し、自分にふさわしい学習方法や学習習慣を身に付けること」

（高：ウ）

「社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること」

（高：エ）

「適性やキャリア形成などを踏まえた教科・科目を選択することなどについて、目標をもって、在り方生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること」

ア：すでに行っている

イ：まだ行っていないが、
今後行う予定である

ウ：まだ行っておらず、
今後も行わない予定がない

エ：わからない

高等学校 (n=201)	選択肢			
	ア	イ	ウ	エ
ホームルーム活動（3）ア	50%	20%	7%	22%
ホームルーム活動（3）イ	30%	24%	19%	27%
ホームルーム活動（3）ウ	53%	18%	7%	22%
ホームルーム活動（3）エ	59%	21%	4%	17%

【質問 12】 あなたの学校は、キャリア教育の「全体計画」及び「年間指導計画」がありますか。

「全体計画」

「年間指導計画」

ア：ある
イ：ない
ウ：わからない

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ
小 (n=408)	74%	0%	26%
中 (n=253)	68%	2%	30%
高 (n=201)	56%	1%	43%
計 (n=862)	68%	1%	31%

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ
小 (n=408)	68%	1%	31%
中 (n=253)	66%	2%	32%
高 (n=201)	53%	1%	46%
計 (n=862)	64%	1%	35%

【質問 13】 あなたの学校は、キャリア教育に関する担当者を中心とする校務分掌組織が機能していますか。

ア：よく機能している
イ：やや機能している
ウ：あまり機能していない
エ：まったく機能していない

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	13%	53%	31%	2%
中 (n=253)	14%	49%	32%	4%
高 (n=201)	21%	55%	20%	3%
計 (n=862)	16%	52%	29%	3%

【質問 14】 あなたの学校は、キャリア教育に関して、他校種との連携を図っていますか。

ア：よく連携を図っている
イ：やや連携を図っている
ウ：あまり連携を図っていない
エ：まったく連携を図っていない

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	15%	45%	36%	4%
中 (n=253)	13%	40%	38%	10%
高 (n=201)	8%	47%	36%	9%
計 (n=862)	13%	44%	36%	7%

【質問 15】 あなたの学校は、キャリア教育に関する校内研修を実施していますか。

ア：すでに実施している
イ：まだ実施していないが、
今後実施する予定である
ウ：実施しておらず、今後も実施する予定がない
エ：わからない

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	19%	19%	17%	45%
中 (n=253)	13%	20%	25%	42%
高 (n=201)	25%	16%	16%	43%
計 (n=862)	19%	18%	19%	44%

【質問 16】 あなたの学校では、キャリア教育において、どのようなポートフォリオ的な教材を活用していますか。

- ア：県版「キャリアノート」のみ活用している
 イ：県版「キャリアノート」を活用するとともに、
 学校独自のフォーマットを活用している
 ウ：県版「キャリアノート」は活用せず、学校独自のフォーマットを活用している
 エ：その他

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	88%	8%	2%	2%
中 (n=253)	66%	23%	8%	3%
高 (n=201)	33%	19%	37%	11%
計 (n=862)	69%	15%	12%	4%

【質問 17】 あなたの学校では、「キャリアノート」（県版及び学校独自のものを含む）をどのように保管していますか。

- ア：教師が、教室内や学年等で定めた場所に保管している
 イ：児童生徒が、学校内で各自保管している
 ウ：家庭に持ち帰らせて、各自で保管させている
 エ：その他

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	90%	9%	0%	1%
中 (n=253)	93%	3%	2%	1%
高 (n=201)	37%	33%	19%	10%
計 (n=862)	79%	13%	5%	3%

【質問 18】 あなたの学校では、「キャリアノート」（県版及び学校独自のものを含む）の学年間での引き継ぎを行っていますか。

- ア：行っている
 イ：行っていない
 ウ：わからない
 エ：その他

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	79%	11%	10%	0%
中 (n=253)	75%	9%	15%	1%
高 (n=201)	27%	25%	46%	2%
計 (n=862)	66%	14%	20%	1%

【質問 19】 あなたの学校では、「キャリアノート」（県版及び学校独自のものを含む）の校種間での引き継ぎを行っていますか。

(小：小学校から中学校へ、中：中学校から進学先へ、
 高：中学校まで使用していたキャリアノートを活用している)

- ア：行っている（小・中）
 活用している（高）
 イ：行っていない（小・中）
 活用していない（高）
 ウ：わからない
 エ：その他

校種 \ 選択肢	ア	イ	ウ	エ
小 (n=408)	63%	5%	32%	0%
中 (n=253)	68%	6%	25%	0%
高 (n=201)	3%	60%	36%	1%
計 (n=862)	51%	18%	31%	0%

【質問 20】 キャリア教育に関して、困りや疑問、要望、キャリアノートの活用等でご意見がありましたら記述して下さい。

主な内容

○キャリア教育に関する意見

- ・キャリア教育への理解、研修意欲（小・中・高）

○キャリアノートに関する困り

- ・記入時間の確保（小・高）
- ・支援を要する児童への対応（小）
- ・持ち帰りの際の紛失（小・中）
- ・業務負担感（小・中）

○キャリアノートに関する疑問

- ・キャリアノートの有効性、教育効果、キャリア教育とのつながり（小・中）
- ・活用方法がわからない（小・中）
- ・必要性がわからない（小・中）
- ・進学先でどのように使われているのか（小・中）
- ・キャリアノートそのものがよくわからない（高）

○キャリアノートに関する意見

- ・デジタル化できるとよい（小・中・高）
- ・具体的な実践例が知りたい（小・中）
- ・記録が残せてよい（小）
- ・県版キャリアノートの内容を改善して欲しい（小・高）